

三芳の芸術文化活動

新型コロナウイルスによって芸術文化活動に制約がかかる現在。コロナ明けに目を向けて、歩みを止めない団体の活動に迫ります。

■フルートサークル フルール

〒049-259-7387

コピスみよし主催の講座を経て、有志により結成。多くの初心者だったメンバーも、フルートを始めて18年になりました。会員は16人、主に文化祭の発表曲などでレパートリーを増やしながらかつ上達も実感し、仲間とアンサンブルを楽しんでいます。

今までに高齢の方が演奏を聴いて表情が明るくなったり、楽しんだり喜んでくださったことも、活動を続けていく上でとても励みになっています。

昨今、披露する場が減ってしまいましたが、また多くの人に演奏を聴いていただける機会を楽しみに活動していきます。



練習に集まった会員の皆さん



密を避けての練習

■新舞踊 松美流栄扇会

〒049-258-2191

日本舞踊西川流の西川扇之寿先生が家元となり、始まったサークルで今年で40年になります。和服を着て新舞踊、日舞などのお稽古をしています。

みよしまつりでも踊られている「みよし音頭」「ふるさとみよし音頭」「長生き音頭」「みよし小唄」は家元が昭和56年に振付をした踊りです。近年は知られていない踊りもありますが、これら郷土の踊りを後世に伝えていきたいという思いがあり、踊りを映像に残す活動も行いました。

小さなお子様からお年寄りまで、楽しくお稽古して多くの方々に踊っていただきたいので興味がある方は気軽にお声がけください。



来年6/18(日)には「40周年のおさらい会」を開催します。



カメラの前で華麗に踊る会員の皆さん

芸術文化に触れてこころの豊かさを

三芳町は、平成30年に芸術文化のまちづくり条例を制定しました。芸術文化は人々に感動や充足感をもたらす、こころを豊かにしてくれます。町では住民が主役になる芸術文化活動によってこころの豊かさを生み出す取り組みをすすめています。

外出の自粛要請などにより家にいる時間が長くなっているこの秋こそ、この紙面から芸術文化に触れ、生活に、こころに、豊かさを取り入れてみてはいかがでしょうか。

芸術文化の力

新型コロナウイルスの影響で発表や活動の場を奪われてきた芸術文化。その中でも三芳町にはコロナに負けじと感染症対策を行いながら活動を続けようとする人たちの姿がありました。

各団体で活動内容は異なっても芸術文化を愛する想いは同じです。今ある環境でできる芸術文化活動で、自らも楽しみ、演奏や舞、作品などによって観る人にも感動を届ける。皆さんの活動には芸術文化が持つ力が垣間見えます。

新

型コロナウイルスの影響で発表や活動の場を奪われてきた芸術文化。その中でも三芳町にはコロナに負けじと感染症対策を行いながら活動を続けようとする人たちの姿がありました。

■混声合唱団「響」



混声合唱団「響」
団長 岡田時弘さん

〒090-9369-3168

今年で設立36年になる混声合唱団「響」。これまでの活動では、町内での合唱の練習・演奏に留まらず、海外交流の機会もあり、音楽が世界共通だという楽しさに気づけました。また、芸術文化が向上心を育み、同じ趣味を通じて輪を広げてくれることもこれまでの活動でひしひしと感じています。

現在は、新型コロナウイルスの影響で本来の活動である合唱ができず、今まで練習してきた曲のCDで各自自宅練習するという状況です。苦しい想いをしていますがまた合唱できることを目標に頑張っていきたいと思っています。



ハンガリーで現地の合唱団との交流の様子

■上富小学校 郷土伝承クラブ

地 元三芳町、上富地域に伝わる昔の暮らしや遊び、お囃子を学ぶクラブ活動で、開校と同時に発足して今年で50年目。先生や上富囃子保存会の会員の方に指導をしてもらいながらクラブのメンバーが中心となって活動しています。

例年は木ノ宮地蔵堂のお祭りや2年に1度開催する「上富まつり」などで練習したお囃子を披露しますが、コロナの影響で中止になってしまいました。これまで練習してきた成果をたくさんの人に見てもらえないのは残念ですが、三芳に伝わっている大切な伝統を、楽しみながら体験したり学べたりできるこのクラブでの活動を、これからも続けていきたいです。



クラブのメンバーと指導する上富囃子保存会の諸星会長



楽しみながら黙々と練習に打ち込む子供たち